

令和7年度 学校評価 (年度末評価)

<p>本年度の重点目標</p>		<p>【スローガン】 「自分がすき・みんながすき・学校がすき」</p> <p>① 安全で安心して学べる学校づくり ② 働きやすい職場づくり ③ 個に応じた指導の充実 ④ つながりのある教育活動の実践</p>	
項目 担当	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務	④校内掲示板や広報活動の充実	・学校だよりやホームページ、グループウェアを有効活用する。	・他のたよりとの重複を避けつつ、必要な情報をわかりやすく伝えるようにした。ホームページ、グループウェア、マチコミの活用については、個人情報に特に留意し、配信を行った。今後、現在郵送で対応している部分のペーパーレス化を進めていけるように、検討する。
教務	④つながりのある教育活動の実践	・小学部、中学部、高等部のつながりのある教育課程を目指し、児童生徒の実態を踏まえつつ検討を進める。教科・領域会を中心に3部間の指導内容の系統性や教科の横断性を盛り込んだ年間指導計画を検討していく。	・生活単元学習の領域会を中心に、児童生徒の実態に合わせた指導計画と学習内容を検討した。今後は学校小規模化に伴う行事変更も考慮しつつ、学習活動やねらいにつながりがあるように改善を続ける。また、各教科・領域を合わせた指導について、関連する教科の学習指導要領と照らし合わせ、教科ごとの指導内容の偏りを調べた。今後は指導内容の重複を削減し、不足領域を補完できるよう年間指導計画を再編し、系統性や横断性についても整えていく。
生徒指導	①防災計画の見直しを図る  ①いじめの防止	・巨大地震の発生に備え、身を守るための具体的な行動や避難方法などを計画し、児童生徒、教職員に周知する。  ・学校いじめ防止基本方針に基づき、児童生徒相互が好ましい人間関係をつくれるようにする。	・繰り返し訓練を行うことで、児童生徒や職員に身を守るための具体的な行動を周知できた。また、避難方法や対策本部の動きなど、防災計画全体を整理できた。  ・生徒向けの「私たちの健康（心と体）アンケート」による情報収集や、細やかな児童生徒の観察の重要性を意識することで、問題の早期発見や対応をとることができた。

進路指導	②キャリア教育の充実と地域連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路に関わる情報発信を充実させ、校内、関係諸機関との情報交換を密に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政機関と連携した保護者説明会や新たな職員向けの研修を行うことで、一定の情報発信ができた。</li> </ul>
保健体育	①安全な教育環境の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時対応の体制や方法を整え、児童、生徒、職員が安全で安心できる環境を構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時対応セットの内容、設置場所の見直しを行い、緊急時対応訓練等を通して職員間の情報共有を図った。緊急時対応のシミュレーション訓練を重ね、より円滑に緊急時対応ができる体制を整えることができた。緊急時対応を見直したことで、不都合が現れてくることも考えられるため、今後も訓練等を重ね、随時マニュアルを見直す必要がある。</li> </ul>
研修	③教職員の専門性の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現職研修を充実させる。</li> <li>・全校研究を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師による現職研修では、他校からの情報を受けて講師を依頼し、充実した研修になった。今後も、各方面からの情報を活用し、外部講師の招へい進めていきたい。</li> <li>・昨年度と同じテーマで取り組んだことで、より研究を深めることができた。研究を通して、小・中・高のつながりを意識した指導・支援ができるようにしていきたい。</li> </ul>
情報	②教員の情報活用技能およびセキュリティ意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員用タブレットパソコン、視聴覚機器等の利用について、有効活用やトラブル等への日常的なサポートを行う。</li> <li>・担任や学年、生徒指導部等との連携を密にして、情報モラル教育を進めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的に教員に向けていろいろな機器等の設定や利用に際して、適切なサポートができた。機器の設定方法について、適時更新されることがあるため、その都度サポートできるようにしていく必要がある。</li> <li>・生徒指導部と協力しながら、適時情報モラル教育を進めることができた。職員についても研修等とおして、情報モラルの知識を更に深めていけるとよい。</li> </ul>
教育支援	③センター的機能の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の保護者や教員を対象に、たんぼ相談や支援指導検討会等の相談活動や研修会等を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談活動を通じて地域の保護者や教員の抱える課題を共有し、情報提供と丁寧な対話を重ねることで、よりよい支援につながるよう取り組んだ。今後も関係機関との連携を更に深めながら、センター的機能の一層の向上を目指したい。</li> </ul>

自立活動	③学習指導支援の充実	・一貫性、継続性のある指導を行うために、「流れ図」や年間指導計画等を活用する。	・「流れ図」や年間指導計画の記入内容の精選を行った。これまで別々に作成していた「流れ図」と年間指導計画を1枚にまとめたことで、引継ぎ資料として見やすくなり、一貫性、継続性のある指導につながるようになった。
小学部	③生活習慣や日常生活における基本的な力の育成	・二学年ごとの長期的な視点に立ち、PDCAサイクルに基づいた授業の改善、指導・支援の充実を図る。	・教科・領域会を通して、各学年の取組成果について情報収集をした。年間指導計画を基に、段階的な指導を行うことができた。今後は、今年度の取組を振り返り、より教職員の共通理解を深め、児童一人一人の実態に沿った手だて・支援を実施していく。
中学部	①生徒全員が「分かった」「できた」「やってみよう」と思える授業づくり	・生徒の実態や障害の特性に合った題材や単元を考えたり、ICTを始めとした教材・教具の工夫や環境整備をしたりすることで生徒自身が課題を理解し、自分から取り組めるようにする。	・生徒たちの実態や日常的な様子について職員間で継続的に情報共有を図り、実態や興味・関心に即した課題の設定や教材の工夫等を行った。その結果、生徒たち自身が主体的に取り組もうとする姿が多く見られた。
高等部	③自立と社会参加を実現する力の育成	・学校生活におけるさまざまな行事や活動を通して、主体的に学び、課題を解決していく力を育成する。	・地域産業や大学と協力した活動、学習意欲や興味・関心を高める取組について、ICT機器を活用するなど工夫することで、生徒が主体的に生き生きと活動する様子が多く見られ、自立に向けた自信につなげることができた。

【学校関係者評価を実施する主な項目】

項目	年度末評価
○笑顔のある安全・安心な学校づくり（防災計画の見直し）	・防災訓練では、災害時に本部を教室棟に近い第一ホールに設置するようにする等、より実際に即した状況を想定し、実施した。災害発生後の校内安全確認・負傷者救助段階に移行する教員の行動は次第にスムーズになってきている。児童生徒も混乱したり慌てたりすることなく、指導者の言葉かけや指示に合わせて行動ができてきている。今後は、柔軟な対応が必要となる災害想定をした訓練を実施していきるとよい。緊急時対応訓練では、校内で発作やけが人があったときの対応について、緊急時対応セットを活用しながら、救急車要請までの手順について訓練を実施した。部や学年ごとの集団で行うことにより、疑問点や注意点を遠慮なく確認し合うなど、もしものときに行動できる心の準備ができてきている。

<p>○令和8年度小牧特支への期待感をもった円滑な移行</p>	<p>・小牧特別支援学校への転校手続きは滞りなく進んでおり、中3の生徒は2月17日(火)に入学者選考を終えたところである。今後は、卒業後あるいは修了式後に個人情報を含むデータをやり取りする予定である。児童生徒に向けて、2月10日(月)に全校集会(特別版)ということで、お別れ集会を実施した。集会の中では、スライドを使って小牧特支へ転籍する児童生徒を紹介したり、「グッディ グッバイ」を皆で合唱したりするなど、近々に迫る小牧特支転校に意識を向けることができた。</p>
<p>○児童生徒の学びを最優先した教員業務の見直し</p>	<p>・11月より電話対応時間の縮小、マチコミを利用したプリント類のデジタル配信など教員業務の具体的な業務改善を実施したことにより、勤務時間に余裕が生まれ、その時間を教材研究等にあてることができるようになってきている。退勤時間についても19時の区切りが職員間に定着しつつある。</p> <p>現在、令和9年度の学校行事について検討を進めているところである。児童生徒の学びの優先度を柱にしつつ、教員業務の効率化や削減も同時に考えていきたい。</p>